

マルコの福音書 11:27-12:12 イエスの権威を疑問視する

私たちはマルコの福音書の学びの中で、イエスの生涯の最終週について読み進めています。今日は、イエスの生涯の最終週の三日目、火曜日の初めの部分から見ていきます。そして、再び神殿が舞台の中心となり、今度はイスラエルの宗教指導者たちとの対立が焦点になります。その対立は権威をめぐるものであり、まさにイエスと宗教指導者たちの権威の衝突が起きたのです。ここで問題となったのは、キリストの権威は宗教指導者たちの権威の上にあるのか、どうかという問題でした。そして、この衝突は、イエスの権威の源がどこにあるのかという議論から始まります。それでは、マルコによる福音書11章27節から33節を見ていきましょう。彼らは再びエルサレムに来た。イエスが宮の中を歩いておられると、祭司長たち、律法学者たち、長老たちがやって来て、²⁸こう言った。「何の権威によって、これらのことをしているのですか。だれがあなたに、これらのことをする権威を授けたのですか。」²⁹イエスは彼らに言われた。「わたしも一言尋ねましょう。それに答えなさい。そうしたら、何の権威によってこれらのことをしているのか、わたしも言いましょ。³⁰ヨハネのバプテスマは、天から来たのですか、それとも人から出たのですか。わたしに答えなさい。」³¹すると、彼らは論じ合った。「もし、天から来たと言え、それならなぜ、ヨハネを信じなかったのかと言うだろう。³²だが、人から出たと言え——。」彼らは群衆を恐れていた。人々がみな、ヨハネは確かに預言者だと思っていたからである。³³そこで、彼らはイエスに、「分かりません」と答えた。するとイエスは彼らに言われた。「わたしも、何の権威によってこれらのことをするのか、あなたがたに言いません。」

ここでイエスに近づいた人々は、サンヘドリンと呼ばれる人々でした。サンヘドリンはイスラエルの人々で構成され、(ローマ帝国の支配下にあつて)イスラエルの最高レベルの意思決定機関を構成していました。サンヘドリンは、71人の宗教指導者たちによって構成されており、イスラエルの民とローマ帝国との間に入って、政府として機能していました。これは、祭司長、律法学者(時に律法の教師と呼ばれる人々)、民の長老たちの三つのグループからなっていました。彼らはイエスのもとにやって来て、この公的な政府の代表として、イエスが今、していることを行う権威は、誰が与えたものなのか、と尋ねているのです。マルコによる福音書全体を通して、誰がイエスの権威を与えているのかを示すヒントが与えられています。例えば、マルコの福音書1章にあるイエスの洗礼式では、父なる神自らがイエスを自分の子であると宣言しています。マルコの福音書1章11節には次のように書かれています。¹¹すると天から声がした。「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」マルコの福音書1章27節には、イエスが悪霊から人を解放した後、人々がイエスの権威を認めたことが記されています。²⁷人々はみな驚いて、互いに論じ合った。「これは何だ。権威ある新しい教えだ。この方が汚れた霊にお命じになると、彼らは従うのだ。」そして、悪霊を追い出す権威についての記述は一回だけではなく、(聖書の中に)何回も記録されています。しかし、イエスの権威は悪霊にとどまらず、私たちの最大の問題である罪そのものに対する権威も含まれています。マルコの福音書2章では、イエスの病気に対する力と罪に対する権威が組み合わさって、あらわされています。マルコの福音書2章10から11節には、¹⁰しかし、人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたが知るために——。」そう言って、中風の人に言われた。¹¹「あなたに言う。起きなさい。寝床を担いで、家に帰りなさい。」そして、宗教指導者たちが自分たちこそがその権威であると信じていたものがあるとしたら、それは安息日でした。しかし、イエスはその安息日の上にもご自分の権威があることを宣言されました。マルコの福音書2章27から28節には次のように書かれています。²⁷そして言われた。「安息日は人のために設けられたのです。人が安息日のために造られたものではありません。²⁸ですから、人の子は安息日にも主です。」そして、今日の聖書箇所でのイエスの権威に関する直接対決に至るまで、私たちはこのマルコの福音書を通して、イエスに従うことが、イエスの権威と直接関係していることを見てとることができます。イエスは典型的なユダヤ教のラビとして彼らに、質問に対して質問で答えていますが、他のラビに同意を求めるといった典型的な自己弁護はしていません。ここでは、イエスはヨハネのバプテスマを用いて、神ご自身の権威に直接触れられています。ヨハネの洗礼が神からのものであっても、単なる人間的なものであっても、イエスは神の名前を出さず、天という地名を使って神を指すというユダヤ教の伝統を尊重しています。先ほど見たように、イエスの権威の根拠はバプテスマのヨハネとイエ

スの洗礼から始まっているのです。だから、ヨハネについての決断は、イエスについての決断でもあるのです。というのも、父なる神がイエスのミニストリーを公の場で承認することを明確に示されたのは、イエスの洗礼の時だったからです。マルコの福音書1章10から11節には、¹⁰イエスは、水の中から上がるとすぐに、天が裂けて御霊が鳩のようにご自分に降って来るのをご覧になった。¹¹すると天から声がした。「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」と書かれています。

イエスの回答は彼らが期待していたものではなかったため、31節にあるように、**彼らは論じ合った**、つまり自分たちの間で話し合いました。ここで、バプテスマのヨハネは、政府の改革者、あるいは、説教者としてでもなく、預言者として紹介され、敬意をもって扱われています。そして、このヨハネの呼び方と、ヨハネに対する理解は正しいものでした。なぜならば、バプテスマのヨハネの目的はイエスを紹介することにあつたからです。彼は、旧約聖書最後の預言者であり、イエスを指し示す言葉を与えるだけでなく、イエスを世に紹介するという他のどの預言者も個人的にできなかったことをする特権に預かりました。つまり、この議論は問題を回避しようとする試みなのです。彼らは、イエスが自分たちを窮地に追い込んでいくことを理解していました。イエスの質問に答えるにあたって、ヨハネを通してイエスの権威を認めるか、ヨハネに対する本音を話してすべての人々から反感を買うか、選択をせざるをえませんでした。マルコの福音書の中で、マルコは「**論じ合った**」という言葉が7回使っているのですが、それはいつも、イエスが（どうしなさいと）はっきりと告げたにも関わらず、宗教指導者たちが聞き入れたくなかったので、屁理屈をこねて逃れようとするときに使われているのです。だから、彼らの答えは答えとはなっておらず、仕方なく、「**分かりません**」と答えているのです。しかし、イエスの権威に自らを委ねようとしない人々に対して、イエスはちゃんとした答えを与えようとはしないのです。長老や律法学者らの反応には、イエスに対する信仰を全く見ることができません。マタイの福音書では、イエスはからし種のような小さな信仰にも応えてくださると言っています。マタイの福音書17章20節には、²⁰…まことに、あなたがたに言います。もし、からし種ほどの信仰があるなら、この山に『ここからあそこに移れ』と言えば移ります。あなたがたにできないことは何ともありません。』と書かれています。しかし、サンヘドリンに対しては、イエスに対する信仰がなかったため、イエスは何も答えませんでした。そこでサンヘドリンたちは、「**これらのこと**」、すなわち奇跡、説教、罪の赦し、そしてもちろん前日に見たこと、神殿から商人を追い出したこと、をどのように行なったのか、と質問したのです。しかし、バプテスマのヨハネがイエスに洗礼を授けた際に最初に宣言された神の子としてのイエスの権威ゆえに、「**これらのこと**」が起こっていると理解することが、本来であれば当然の、そして唯一の理解のあり方であるべきでした。現代の私たちでさえ、これらの出来事を読むとき、イエスが神の子であり、それゆえに神ご自身の権威のもとで「**これらのこと**」行っていると理解するのが唯一の理解のあり方です。イエスを単なる奇跡を起こす人、偉大な教師、預言者として受け入れることはできないのです。イエス・キリストの生涯の出来事を説明するには、イエスが神ご自身であること、子なる神であることを受け入れなければならないのです。

しかし、イエスは彼らにそう簡単には言い逃れをさせませんでした。イエスを拒絶することで、自分たちが誰の権威を拒絶しているのかを理解させるために、イエスは彼らにたとえ話を突きつけました。このたとえ話を通じて、**イエスの権威を拒否することが何を意味するか**をイエスははっきりと示しました。マルコの福音書12章1節から11節までを見ていきましょう。¹それからイエスは、たとえで彼らに話し始められた。「ある人がぶどう園を造った。垣根を巡らし、踏み場を掘り、見張りやぐらを建て、それを農夫たちに貸して旅に出た。²収穫の時になったので、ぶどう園の収穫の一部を受け取るため、農夫たちのところにもべを遣わした。³ところが、彼らはそのしもべを捕らえて打ちたたき、何も持たせないで送り返した。⁴そこで、主人は再び別のしもべを遣わしたが、農夫たちはその頭を殴り、辱めた。⁵また別のしもべを遣わしたが、これを殺してしまった。さらに、多くのしもべを遣わしたが、打ちたたいたり、殺したりした。⁶しかし、主人にはもう一人、愛する息子がいた。彼は『私の息子なら敬ってくれるだろう』と言って、最後に、息子を彼らのところに遣わした。⁷すると、農夫たちは話し合った。『あれは跡取りだ。さあ、殺してしまおう。そうすれば、相続財産は自分たちのものになる。』⁸そして、彼を捕らえて殺し、ぶどう園の

外に投げ捨てた。⁹ぶどう園の主人はどうするでしょうか。やって来て、農夫たちを殺し、ぶどう園をほかの人たちに与えるでしょう。¹⁰あなたがたは、次の聖書のことばを読んだことがないのですか。『家を建てる者たちが捨てた石、それが要の石となった。¹¹これは主がなさったこと。私たちの目には不思議なことだ。』』

このたとえ話は、明らかに権威の拒絶に関するものであり、特に十字架におけるイエスの究極的な拒絶を預言的に表しているのです。宗教指導者たちはこれをどう聞いたでしょうか？彼らは、イエスが神の民イスラエルに対する神の御業を語っておられることを理解したでしょう。父なる神は、バプテスマのヨハネに至るまで、次々と預言者をイスラエルの民に遣わされてきました。預言者たちに託されたメッセージはどれも似通っており、民の罪を非難し、神の裁きを前に悔い改めを求めるものでした。言い換えれば、預言者たちは民衆、特に宗教指導者たちに、神にふさわしい「果実」、すなわち神が受けるに値する礼拝を捧げるようと呼びかけていたのです。そしてイエスは、ぶどう園を守る役割を担っていた者たち、言い換えれば、神にふさわしい礼拝で神の民を導くはずだった者たちに、特にこの言葉は向けられているのです。ぶどう園の一員であるイスラエルの普通の人々ではなく、彼らこそ、このたとえ話に出てくる悪者なのです。彼らの悪（の根源）は、ぶどう園の主人である神から遣わされた者のメッセージを拒絶したことにありました。結局、彼らは神の御子イエスを拒み、ぶどう園の労働者たちと同じように、イエスを十字架につけるよう求めたのです。

そして、彼らはイエスの意図した通りにこのたとえ話を理解したのでしょうか？この出来事は、私たちに彼らがどのように応答したかを語って終わっています。彼らはイエスの権威を拒絶しただけでなく、イエスの権威を破壊しようとしてしました。それではマルコの福音書12章12節を見ていきましょう。¹²彼らは、このたとえ話が自分たちを指して語られたことに気づいたので、イエスを捕らえようと思ったが、群衆を恐れた。それでイエスを残して立ち去った。サンヘドリンたちは、このたとえ話の中に自分たちのイエスを拒絶した姿が描かれていることを、理解していました。また、彼らは、イエスがこのたとえ話によって、自分自身が明らかに父から遣わされた子であり、神自身であることを暗示していることも、理解していたようです。ご自身がこの神であるという主張は、結局のところ、宗教指導者たちがイエスの死を求める動機となったものです。イエス自身が神であるという主張は、ローマ帝国の支配者たちが、十字架刑を承認する理由にはなりませんでしたが、宗教指導者たちが十字架刑を求める理由になったことは間違いありません。最終的には宗教指導者たちは群衆を味方につける必要があります、それには彼を逮捕する明確な理由を見つける必要がありました。しかし、明らかに嘘をつく以外に、宗教指導者たちはイエスを逮捕する明確な理由を見出すことはできませんでした。この直後、イエスを逮捕しようとする別の試みが行われましたが、これも失敗に終わりました。しかしキリストの権威に関して、神が今日の私たちの生活に適用することを望んでおられるものは何なのかを考えてみましょう。この箇所を私たちの日々の生活に適用するための鍵は、彼らが宗教指導者であるという点にあります。宗教指導者である彼らは聖書を最もよく知り、宗教的な規則を最もよく守り、「教会」（あるいは神殿）に最も多く通った人たちでした。にも関わらず、（彼らの心は）神から遠く離れていたため、神の御子を滅ぼそうとまでしました。ここには私たちへの警告があります。宗教的でありながらイエスの権威を拒否することはできるが、真のキリスト信者、クリスチャンでありながらイエスの権威を拒否することはできないのです。サンヘドリンの代表者たちがしたように、表面的に神を礼拝しているように見せかけ、多くの人々を欺くことはできますが、神は私たちの心を知っておられます。ひとり子であるイエス・キリストを通して父なる神のもとに来た者だけが、真に神を礼拝し、神に仕えることができるのです。ヨハネの福音書14章6節には、⁶イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。と書かれています。イエスに従うことは、偽るにはあまりにも重要です。文字どおり私たちの永遠（未来永劫）がかかっているからです。

今日の説教を終えるにあたって、10節と11節において、イエスが『家を建てる者たちが捨てた石、それが要の石となった。¹¹これは主がなさったこと。私たちの目には不思議なことだ。』と言っている箇所を見ていきましょう。これは、詩篇118編22節から23節の引用ですが、この詩篇は神の救いを賛美する美しい

詩篇です。実際に、詩篇118篇の19節からその詩篇を見ていきましょう。¹⁹義の門よ 私のために開け。私はそこから入り 主に感謝しよう。²⁰これこそ主の門。正しい者たちはここから入る。²¹私はあなたに感謝します。あなたが私に答え 私の救いとなられたからです。²²家を建てる者たちが捨てた石 それが要の石となった。²³これは主がなさったこと。私たちの目には不思議なことだ。正しい者、聖なる者、罪のない者だけが主の御前に入ることができるのです。宗教指導者たちは主の臨在があるところにいるはずでした。実際、彼らは神殿で人々をその臨在に導く役割を担っていました。しかし、神のいる場所は神殿ではなかったのです。神はイエス・キリストのうちに臨在されており、そのイエスを彼らは拒んでしまったのです。宗教指導者たちは正しいどころか、罪によって盲目となり、人々を神からむしろ遠ざけていたのです。しかし、救いは唯一の真に正しい方、イエス・キリストを通じてえられるのです。詩篇118篇の21節を見てください。私の義ではなく、主（神）の義なのです。だから詩篇の作者は主に向かって、「**あなたが…私の救いとなられたからです**」と答えているのです。さらに、イエスが引用した2つの節は、神がどのように救いをもたらすかを示しています。神がご自分の王国を築き、救いを与えられるのは、神殿や宗教指導者たちを通してではないのです。それは、**家を建てる者たちが捨てた石 それが要の石となった**、ということなのです。イエスこそがその捨てた石であり、十字架上で究極の拒絶に直面しながらも、最終的には救いに至る唯一の道となったのです。しかし、これは決して偶然ではありません。これは最初から神のご計画であり、私たちがこのご計画の壮大さを見ると、それは驚異であり、栄光に満ちています。イエスは、自分が礎石であると言って引用を終えているのではなく、11節で、**これは主がなさったこと。私たちの目には不思議なことだ**、と言っておられます。エペソ人への手紙1章では、神の御子、三位一体の第二位格、神ご自身であるイエスを救い主として遣わすという神のご計画は、この世が形成される前から、神の主権的なご計画によって定められていたことを明らかにしています。**エペソ人への手紙1章4-6節⁴すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方において私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。⁵神は、みこころの良しとするところにしがって、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。⁶それは、神がその愛する方において私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。**イエスは究極の権威の源なのです。彼は王の王であり、主の主でいらっしゃいます。イエスは時が始まる前から存在し、永遠の過去において、自分が創造した人々の拒絶に直面することに同意することによって罪深い人々の一部が神の民と呼ばれ、彼の十字架上の死によって救われるようにしてくださったのです。

これが、私たちが聖餐式を祝う際に思い出すべき犠牲なのです。イエス・キリストの犠牲は、「**私たちの目には不思議なこと**」であり、他の人の死とは大きく異なります。私たちは、詩篇118篇に、「**主の門・・・正しい者たちはここから入る**」と書かれているように、イエスの死によって主のもとに行くことができるのですから、イエスの死は私たちにとって素晴らしいものなのです。もし、あなたがイエス・キリストを主であり救い主として受け入れ、その信仰によって義とされ、バプテスマを受けたのであれば、今日の聖餐式に参加してください。もし、あなたがイエスを主であり救い主として受け入れておらず、バプテスマを受けていないのであれば、参加はご遠慮ください。まだ準備ができていないお子さんたちを、聖餐式に参加させないことで、この式の重要性を教えてあげてください。私が祈った後、執事たちが礼拝堂の四隅からパンとジュースを配膳します。全員に配膳がされましたら、一緒に食べ、一緒に飲みます。それでは、祈りましょう。

Mark 11:27-12:12 Questioning Jesus's authority

We are working our way through the final week of Jesus's life in our study of Mark. Today, we are going to look at the beginning of the third day of the week, Tuesday. And the action once again centers around the temple and this time the religious leaders of the people of Israel. The issue is authority, and it is really a clash of authority between Jesus and the Religious leaders. Is Christ's authority above that of the religious leaders, that is the question. And the discussion begins with a question that asks about **the source of Jesus's authority**. Let's look at that question in Mark 11:27-33. ²⁷ They arrived again in Jerusalem, and while Jesus was walking in the temple courts, the chief priests, the teachers of the law and the elders came to him. ²⁸ "By what authority are you doing these things?" they asked. "And who gave you authority to do this?" ²⁹ Jesus replied, "I will ask you one question. Answer me, and I will tell you by what authority I am doing these things. ³⁰ John's baptism—was it from heaven, or of human origin? Tell me!"

³¹ They discussed it among themselves and said, "If we say, 'From heaven,' he will ask, 'Then why didn't you believe him?' ³² But if we say, 'Of human origin' ..." (They feared the people, for everyone held that John really was a prophet.)

³³ So they answered Jesus, "We don't know." Jesus said, "Neither will I tell you by what authority I am doing these things."

The people that approach Jesus here represent the Sanhedrin. The Sanhedrin was the highest level of government in Israel made up of the people of Israel. It was made up of 71 religious leaders who ultimately provided a governmental structure between the people of Israel and the Roman government. It was comprised of the three groups that are mentioned here – chief priests, scribes (here called teachers of the law) and Elders of the people. They come to Jesus and ask as an official delegation of this ruling body, what or who gives Jesus the right to do what he is doing. Throughout the book of Mark, there has been a developing thread that shows Jesus's authority, starting at his baptism in Mark 1, where God the Father himself gives the pronouncement of Jesus as his Son. [Mark 1:11](#) says, [11 And a voice came from heaven, "You are my beloved Son; with you I am well pleased."](#) Then in Jesus's very first interaction recorded in Mark, after Jesus has freed a man from a demon, we read about the people's recognition of Jesus's authority in [Mark 1:27](#). [And they were all amazed, so that they questioned among themselves, saying, "What is this? A new teaching with authority! He commands even the unclean spirits, and they obey him."](#) And it wasn't just one account of authority over demons, there are many recorded for us. But Jesus's authority doesn't stop at the demonic, it includes authority over the greatest problem, sin itself. In Mark 2, we see Jesus's power over disease combined with authority over sin. [Mark 2:10-11](#) says, [But that you may know that the Son of Man has authority on earth to forgive sins"—he said to the paralytic—](#) ¹¹ ["I say to you, rise, pick up your bed, and go home."](#) And if there was one thing that the Religious leaders believed themselves to be the authority on it was the Sabbath, yet Jesus proclaimed his authority over that as well. [Mark 2:27-28](#) says, ²⁷ [And he said to them, "The Sabbath was made for man, not man for the Sabbath. ²⁸ So the Son of Man is lord even of the Sabbath."](#) And we could go on through the book up to this direct confrontation regarding Jesus's authority, and see the way that the call to follow Jesus is directly related to his authority. While Jesus answers them as a typical Jewish rabbi with a question, he does not defend himself in a typically rabbinical way by appealing to other Rabbis. Jesus went straight to God himself using the question of John's baptism. Either John's baptism is from God...Jesus respects Jewish tradition of not saying God's name and using the location Heaven to refer to God...or the baptism is just human in origin. As we just saw, the case for Jesus's authority really begins with John the Baptist and Jesus's baptism, so a decision about John would be a decision about Jesus. This is because it was at Jesus's baptism that God the Father clearly demonstrated his approval of Jesus's ministry in a public way. [Mark 1:10 and 11](#) that we already read tells us, ¹⁰ [And when he came up out of the water, immediately he saw the heavens being torn open and the Spirit descending on him like a dove. ¹¹ And a voice came from heaven, "You are my beloved Son; with you I am well pleased."](#)

This answer is not what they expected and as verse 31 says, they **discussed it among themselves**. John the Baptist was introduced and held in esteem not as a reformer of the government or even as a preacher, but as a prophet. And this designation and understanding was correct. John's entire purpose was to introduce Jesus. He was the last Old Testament prophet, and he had the privilege of doing what no other prophet could do personally - introduce Jesus to the world, not just give words that pointed to him. So, this discussion is an attempt to sidestep the issue. They understand the predicament that Jesus has placed them in, and they can't answer without acknowledging his authority through John, or by sharing their true feelings about John and alienate all the people. In fact, everytime Mark uses the word, **discussed**, 7 times, in the gospel of Mark, it is always used of people trying to reason away and escape what Jesus has clearly told them, and they did not want to hear. So, their answer was a non-answer, **"we don't know."** But to those unwilling to commit themselves to his authority, Jesus is not willing to commit himself to respond to them. There is no faith in him in their response. In Matthew we are told that Jesus would respond to even faith as small as a mustard seed... **Matthew 17:20 says, "... For truly, I say to you, if you have faith like a grain of mustard seed, you will say to this mountain, 'Move from here to there,' and it will move, and nothing will be impossible for you."** But to the Sanhedrin he gives no commitment, due to their lack of a response of faith in him. So, the Sanhedrin asks how he is doing, **"these things,"** meaning miracles, teaching, forgiving sins most importantly, and of course what they saw the day before, driving out the commerce from the temple. But the only way to understand **"these things,"** is if they are happening because of the authority of Jesus as the Son of God, which was first declared at John's Baptism. Even for us today, when we read of these events, none of them make sense unless he is who he claimed to be the Son of God, and therefore doing them under the authority of God himself. You cannot accept Jesus as just a miracle worker or great teacher or a prophet. None of those things explain the things he has done...only being God himself, God the Son, explains the events of Jesus Christ's life.

But Jesus will not let them get off that easy. He confronts them with a story, a parable to help them see just whose authority they are rejecting by rejecting Jesus. This parable will demonstrate clearly **what it means to reject Jesus's authority**. Look at the verses starting at Mark 12:1 and going through verse 11.

12 Jesus then began to speak to them in parables: "A man planted a vineyard. He put a wall around it, dug a pit for the winepress and built a watchtower. Then he rented the vineyard to some farmers and moved to another place. ²At harvest time he sent a servant to the tenants to collect from them some of the fruit of the vineyard. ³But they seized him, beat him and sent him away empty-handed. ⁴Then he sent another servant to them; they struck this man on the head and treated him shamefully. ⁵He sent still another, and that one they killed. He sent many others; some of them they beat, others they killed. // ⁶"He had one left to send, a son, whom he loved. He sent him last of all, saying, 'They will respect my son.' ⁷"But the tenants said to one another, 'This is the heir. Come, let's kill him, and the inheritance will be ours.' ⁸So they took him and killed him, and threw him out of the vineyard. ⁹"What then will the owner of the vineyard do? He will come and kill those tenants and give the vineyard to others. ¹⁰Haven't you read this passage of Scripture: "'The stone the builders rejected has become the cornerstone; ¹¹ the Lord has done this, and it is marvelous in our eyes'?"

This parable is clearly about the rejection of authority, and specifically applies prophetically to the ultimate rejection of Jesus at the cross. How would the religious leaders being addressed have heard this? They would see that Jesus is giving them a story of God's work towards his people Israel. God the Father sent prophets, one after another, right up through John the Baptist. Each of them had a similar message, condemning the sin of the people and calling for repentance in the face of God's judgement. In other words, they were calling the people, and especially the religious leaders to give God the "fruit," or the worship that he deserves. And

Jesus is directing this specifically at those who were charged with protecting the vineyard, in other words the ones who were supposed to be leading God's people in the worship that God deserved. They were the evil ones in the parable, not the people who were part of the vineyard, the regular people of Israel. Their evil was in rejecting the message of the ones sent from the owner of the Vineyard, God. Ultimately then, we see them rejecting the Son of God, Jesus, and asking for him to be crucified, just like the workers in the vineyard.

And how do we know that they heard this parable exactly as Jesus intended... because the event ends by telling us! They not only rejected Jesus's authority but **sought to destroy Jesus's authority**. Look at the last verse, verse 12 of Mark 12.

¹²Then the chief priests, the teachers of the law and the elders looked for a way to arrest him because they knew he had spoken the parable against them. But they were afraid of the crowd; so they left him and went away. The Sanhedrin had recognized in this parable a picture of their rejection of Jesus. They also had likely recognized that Jesus was inferring by this parable that he himself was the Son sent by the Father, who was clearly God. This claim to be God is ultimately what the religious leaders would seek his death over. It's not what Rome would approve the crucifixion for, but was definitely what these religious leaders would seek his crucifixion for. They would ultimately win the crowds over, but they would need to find some clear reason to arrest him, which would be impossible without resorting to outright lies. Right after this, we will see another attempt to trap him into a reason for arrest, which will also fail. But as this event comes to an end we need to see what there is here regarding Christ's authority that God wants us to apply to our lives today. The key to application is that these are religious leaders. They are the ones who knew the Bible best, kept the religious rules the best, went to "church" (or temple) the most, and yet were so far away from God, that they want to try to destroy God's Son. There is warning for us in that. You can be religious and reject Jesus's authority, but you cannot be a true follower of Christ, a Christian, and reject Jesus's authority. You can put on a front of worshipping God and fool many people as these representatives of the Sanhedrin no doubt did, but God knows the heart and Jesus knows who are truly worshipping God. Only those who come to God the Father through Jesus Christ, his only son, can truly worship and serve God. **John 14:6 says, ⁶Jesus said to him, "I am the way, and the truth, and the life. No one comes to the Father except through me.** Following Jesus is too important to fake it. Your literal eternity is on the line.

But I want to end by going back to verses 10 and 11 where Jesus said, **The stone the builders rejected has become the cornerstone; ¹¹the Lord has done this, and it is marvelous in our eyes'...** The quote here is Psalm 118:22-23 which is from a Psalm that is a beautiful song of praise for God's salvation. In fact, let's look at that Psalm as we close starting in verse 19 of **Psalm 118. Open to me the gates of righteousness, that I may enter through them and give thanks to the Lord. ²⁰This is the gate of the Lord; the righteous shall enter through it. ²¹I thank you that you have answered me and have become my salvation. ²²The stone that the builders rejected has become the cornerstone. ²³This is the Lord's doing; it is marvelous in our eyes.** Only the righteous, those who are holy and without sin, can enter into the presence of the Lord. The religious leaders were supposed to be where the presence of the Lord was. In fact they were supposed to be leading people into that presence in the temple. But the temple was not where God was. God was in the person of Jesus Christ and they were rejecting him. Rather than being righteous, the religious leaders were blinded by their sin, leading the people away from rather than to God. But salvation is available through the only truly righteous one, Jesus Christ. Notice in verse 21 of Psalm 118. It's not my righteousness. It is the Lord's righteousness, so the Psalmist says to the Lord, **"you...have become my salvation."** Then those two verses that Jesus quotes that show how God will bring salvation. It will not be through the temple or the religious leaders that God will build his kingdom and provide salvation. It will be through **The stone that the builders rejected [that] has become the cornerstone.** Jesus is that stone, who will face the ultimate rejection on the cross, but ultimately be the only way to salvation. But notice this is no

accident. This was God's plan all along, and it is marvelous and glorious when we see how magnificent this plan is. Jesus doesn't end the quote with him being the cornerstone, but with verse 23, **the Lord has done this, and it is marvelous in our eyes...** Ephesians 1 is clear that God's plan to send Jesus, Son of God, Second person of the Trinity, God himself, as our Savior, was in place by his sovereign plan before this world was even formed. **Ephesians 1:4-6 says, 4 even as he chose us in him before the foundation of the world, that we should be holy and blameless before him. In love 5 he predestined us for adoption to himself as sons through Jesus Christ, according to the purpose of his will, 6 to the praise of his glorious grace, with which he has blessed us in the Beloved.** Jesus is the ultimate source of authority. He is the King of Kings and Lord of Lords, because he is God himself. He existed before time began, and agreed in eternity past to face the rejection of people he had created so that some of those people could be called the people of God and saved by his death upon the cross.

This is the sacrifice that we remember in this celebration of the Lord's Supper. Jesus Christ's sacrifice of himself is different than other deaths because it is **"marvelous in our eyes."** It is glorious, because his death makes it possible for us to be among **"the righteous [who] shall enter..."** **"the gate of the Lord,"** As Psalm 118 says. If you have accepted Jesus Christ as your Lord and Savior, and have been made righteous by that faith in him, and obeyed him by being baptized, then we invite you to join us in this meal today. If you have not accepted Jesus as your Lord and Savior or been baptized then I would ask you to refrain from partaking. Children are best taught the importance of this ordinance and sacrament by not being allowed to participate if they are not ready. After I pray, the Deacons will serve the bread and the juice from the four corners of the sanctuary and we will eat together and drink together once everyone has been served. Let's pray.